



沖野 旭子

「みんなとても水であそぶの好きね」「うん好き、大好き」

「水で、いろいろな事をして遊べると思うけれど、どんな遊びをしたことがあるかしら」「水鉄砲」

「色水やさんごっこ」

「しゃぼん玉」「泳ぐの」「僕、ボートにのった」「あ僕もお父さんと舟に乗って釣りに行った」

などと、水に関する自分の経験を友だちの言ったこととも結び合わせ、いろいろ活発に発言します。

「ずい分たくさんあったけれど、幼稚園で出来ることで、みんなが一番好きなことは」とききます

と、口を揃えて「プール」と答えますが、「洋服をぬらさないように」「友だちにかけないよう」というような約束がなく、裸にな

って存分に水を浴びて遊ぶことが出来るからなのではないかと。

私の幼稚園は、縦八米、横四米、深さ六十糎程のプールがあります。小学校と併設ですのて、一

年生と交代で一日おきに使用します。七月一日からは、午前中保育

になりますのて、プール遊びの日

は、主要時間はほとんどそれで終ることになります。

「プールあそび」の約束をしっかりと守れるように、事前にスライドでいろいろな場面を見せ、良いこと、いけないことを話し合います。

水着は家からは着てこない。理由を考えると、次の段階では準備体操は、レコードを使わず、

一、二と子どもと一緒に掛声をかけながら、一つ一つしっかりさせます。シャワーは一列にならび

頭、胸と上から順に浴びるよう、その場で指導します。プールの中

を並んで一まわり歩いて、水のおぶきを少し受けてから、だんだん

に座り身体全体を水の中につけます。水の中に一寸足を入れるたけ

とか、またはぜんぜん入ろうとしない子どもは、水着に着替え、水鉄砲などで遊ばせます。身体にか

けっこをしていいうち、少しずつこちらに誘うようにし、だんだん

に入れるようにします。木や紙で作った舟をうかへ競争

させると進まなかったり、こども、少しいやうり方がよいか皆で考え

一回水の中に入っている時間は五、六分で、五分は外に出て陽に

当り、これを三回くり返します。(年少組は二回ですが)個人差も

ありますのて、寒そうな子どもは早くあげるように気をつけます。

出る時は入る前と同じようによくシャワーを浴びます。

「洋服をぬらさないようにするにはどうしたらよいか」そのためには、

身体を上手に拭く。背中や友達に拭いてもらい、水が少しもつ

いていないように皆で注意しあいます。髪は完全に拭くのは困難で

すのて、手伝います。着替えるの

後、水道の流し水で顔をよく洗い、ぬれた水着も一度水をかけてしほ

ります。庭に出て、誰が一番上手にしほれるか競争させると、割合に

固くしほります。女の子の海水着などは二人がかりで端と端を持って

水に入ることは短時間であっても疲労の度合は多いので、休息は

十分とらせ、激しい運動はさげます。床が油敷きで汚れているため、

床に寝て休ませることも出来ないことはとて残念です。

プールの水は毎日午後入替えをします。

夏休みには一週間、夏季保育でプールあそびをします。水にすっかり慣れた子どもたちを学校の大きなプールに入れます。勿論希望

者ですが、ほとんど全員になります。胸まで水があつても、喜んで

浮袋に掴まって足をばたばたさせます。汽車になって長くつないて

歩き、肩の深さまでになつても平気です。七月の初めには小さいプ

ールに足を入れる事もいやがった子どもでも、皆と一しょに楽しそ

うに遊びます。思うように歩けない水の中であまり投げをしては、そ

れを取りにいこうと一生懸命です。こうして夏の楽しいプール遊び

をしながらも、子どもたちは一つずつ新しい生活態度や社会性を身

につけていきます。家では遅くなるからと、つい着せられていた子

どもも、全部ひとりで風呂をした

験しました。すっかり自信を持ってやがて秋になり一枚、二枚と増えても、ひとりでもう出来ます。

背中を拭いてももらったり、ボツンをとめてあげたり、お互いに自分で出来ないところは、友だち同志助け合う、協力し合う態度も身につけてきます。水に入るには、身体を清潔にしていなければ人に迷惑をかけることを知り、手足を

真黒にして平気でいることもなくなりません。そしてまた新しい次の段階へと成長していきます。

(東京・南山幼稚園)

岡部美智子



私どもの園では、毎年プールを利用して水遊びをしておりますが、七月末から八月上旬にかけて、一週間から十日間くらい、幼児の疲労を防ぐ意味でなるべく日曜日をはさんでいたします。

プールの水がばい菌のばい菌がい所にならぬために、参加児は清潔にするよう、家庭に連絡します。

○爪をきれいにきっておくこと。

○身体も毎日清潔にしておく。

○水着は毎日洗濯して、きれいな物を持ってくる。

○耳あかをとっておく。(水が入って耳疾を起さぬため) など

プールの清掃
プールの壁面は、ねり石ケンまたは、稀塩酸でよくみがき、水底の泥や危険物を取除いて上水道を入れます。それでも露天ですから、水面に塵埃が落ちます。網ですくつとり、漂白粉を水にとかして撒布します。

プールの水の深さはあまり水が多いと自由にとび回って遊へませんし、水が少なすぎても膝にけがをしやすいため、膝の少し上くらい(三どセンチから三五センチくらい)まで水を入れます。

プールの水温、および気温
水温は普通二〇度以上といわれますが、幼児には二三度か二四度以上欲しいと思います。気温は二八度以上が適当ですが、天候の影響も大きいので、その日の風の吹き具合、太陽光線の具合など考えあわせて、入水させてよいか、無理であるか決めます。

水遊びの時間は午前十時半頃から十一時半頃までが、気温もあまり適当と思います。午後はどうしても疲労してきますので、さけています。

さて、これだけの準備が済みますと、幼児の指導がはじまります。まず、用便を済ませてから、着替えをさせます。

準備運動のあと脚、腕、背中、胸腹部、頭から全身の順で、シャワーをあび、全身を洗います。入水の際は、脚から静かに、からだ全体をひたし、それから遊びに入る習慣をつけます。

水に馴れるために全身に水をかけあい、とくに顔にかけ合せてあそび、水に対する恐れをなくします。このとき、顔にかかった水を拭かないように習慣づけます。次に、一時呼吸をとめて顔を水にひたして、眼や耳、鼻に水がひたつてもこわがらないよう慣れさせます。このような一斉指導の後、

亀さんになってはって遊んだり、鬼ごっこをしたり、バタバタ足のけいこをしたり、一しょに入水した職員が、指導技術の腕を振って楽しんであそびさせます。二日もすると幼児はすっかり水に慣れてしま

い、一週間もすると、バタ足をして前へ進めるようになる子どももいます。入水する職員は、幼児の数に応じて必要です。終了後の身体のはじめは、

○シャワーをあびて身体をよく洗うとともに噴水式水道で、眼も必ず洗います。

○身体をよく拭いて、シッカローを首、脇の下などにつけ、さっぱりとさせます。この時は、職員の手が足りないので、父兄に交替で手伝っていただきます。

身体を休ませるに栄養を十分消費している上に、水の中で一杯の運動をした幼児には、相当のエネルギー補給と、休息が必要ですから、食事やおやつに注意し、昼寝も必ずさせ、眠れなくても横になって休息するようにさせます。私の園では、プールあそびだけ帰宅させますので、家庭でさせるよう連絡をとります。

私の園では幸いプールがありませんが、プールのない園で、川や海を利用して水遊びをさせる場合は、その場所、水質、水の流れなど、よく調査して、保健衛生上の面および危険防止の面から十分検討して選ばなくてはならないでしょう。

プールのある園に比して、御苦労の多いことと思いますが、反面、自然の恵みによる収穫も豊かで、都会の子供の羨やむものであります。(東京富士見幼稚園)